

# 日本アディクション看護学会 News Letter 第17号

2011年5月25日 発行

日本アディクション看護学会事務局

## 日本アディクション看護学会第10回学術大会に向けて

第10回学術大会大会長 森 千鶴 (筑波大学)

東日本大震災で被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復興を心から願っております。

第10回日本アディクション看護学会学術集会は、2011年10月1日(土)、2日(日)に筑波大学で開催いたします。第10回という節目の学術集会の大会長を拝命いたしました森千鶴と申します。



(筑波大学 大学会館前広場 写真提供 森先生)

まだ会員になってから日が浅いのですが、多くの実行委員に支えられて準備を進めているところです。私たちは、少し

でも多くの会員の皆様が熱くディスカッションできるような大会を目指しております。大会のテーマは「アディクション看護の専門性の追究—エビデンスのある看護実践のために—」としました。日本アディクション看護学会のこの10年間の歩み、努力の結果、少しずつ「アディクション看護」が理解されるようになってきました。これまでの学術集会では「アディクション社会と看護」というテーマでアディクションを抱えた人々の実態と看護の関わる可能性について検討すると共に、アディクション看護の実践をする上での課題を明確にしてきました。

本年度は、エビデンスのある看護を実践するために、どのように考えればよいのか、またアディクション看護がより高度に専門的になるためにどのようにすれば良いのかを皆様と考えたく、テーマとしました。アディクション看護はこれまで看護教育が不十分であり、卒業してからも体験として学ぶ機会が少ない領域だ

と思います。そのため患者と向き合う看護師それぞれの努力によるところが多く、明確になっているエビデンスも少ないように思います。特に新人の看護師が入職して戸惑うことも多いのが、アディクションを抱えた対象者への看護実践であるように思います。アディクション問題を抱える対象者が多いにも関わらず、経験的に対象者の回復を考えることに重きがおかれ、看護の援助技術として何が良かったのかという分析的な視点で考察することをあまり重視してこなかったように感じます。

今後はこれまでの看護実践の内容を分析して、何が有効であったのか、どのような効果があったのか等を明確にしていくことが重要になると考えます。これからの10年で看護実践のエビデンスを明らかにしつつ、精神看護学の重要な1領域として専門性を追究していくことが必要なのではないかと考えました。そしてこれはアディクション看護の新たな一歩になるのではないかと考えています。

本年度の学会では、自治医科大学看護学部教授の永井優子先生から「アディクション看護実践と研究」というテーマで基調講演をしていただくことにしました。先生のこれまでのご経験からアディクション看護実践から研究に発展させることの重要性や方向性についてご示唆いただけるのではないかと思います。

また、今年度初の試みとして **SARS (Salvia Addiction Recovery Service)** 開設者の千葉マリア氏をお招きし、「薬物依存症者との出会い～共に生きるものとして～」というテーマで市民講座を行

います。当事者を含め市民の方にも広くご参加いただき、アディクションについて共に考えていくことによって、学会の1つの役割でもある予防・啓発活動にもなるのではないかと考えております。皆様とのディスカッションを楽しみにしてお待ちしております。

## 1. 学術集会の開催日程及びプログラム

第10回日本アディクション看護学会学術集会は、2011年10月1日(土)～2日(日)の日程で、筑波大学 大学会館で開催します。最寄りの駅は **JR つくば駅** (つくばエクスプレス)A3 出口からつくばセンターバスターミナル 6 番のりばより、「大学循環(右回り)」「筑波大学中央」行きに乗車し、「大学会館前」で下車します。



(筑波大学正門前モニュメント 写真 森先生)

### 【一日目】2011年10月1日(土)

大会長講演:森千鶴(筑波大学大学院教授)  
「エビデンスのある看護実践とは」

基調講演:永井優子(自治医科大学教授)  
「アディクション看護実践と研究」

総会・ワークショップ・一般演題発表  
懇親会:会員・非会員を問わずに参加することが出来ます。親睦と交流を深め、アディクションについて考える機会にさせて頂きたいと思っております。

## 【二日目】2011年10月2日(日)

ワークショップ・一般演題発表  
市民講座:千葉マリア SARS (Salvia Addiction Recovery Service) 開設者  
「薬物依存症者との出会い ～共に生きるものとして～」

## 2.一般演題およびワークショップについて

演題の申し込み・ワークショップの企画の締め切りは7月15日(金)です。学会ホームページやポスター等で確認できます。

### << 一般演題募集要領 >>

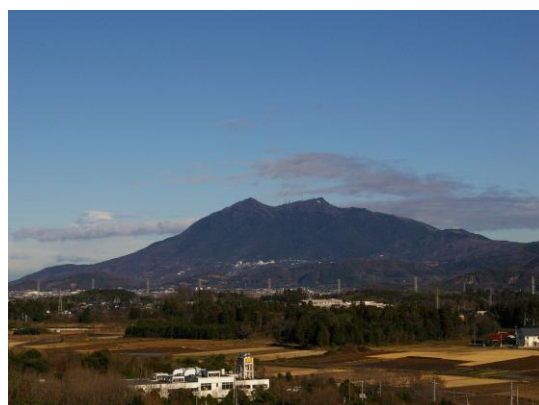
抄録を添付したメールを下記アドレス [10th-jssan@thcu.ac.jp](mailto:10th-jssan@thcu.ac.jp) に送付してください。

- 1)メール件名 抄録(氏名)「第10回日本アディクション看護学会学術集会」
- 2)メール本文 発表者名、所属、演題名、連絡先、メールアドレス
- 3)抄録様式 A4用紙1枚以内(余白:上下3.0cm、左右2.5cm)。本文40字×30行フォントサイズ演題名12ポイント、所属・氏名・本文10.5ポイント。以上をワードにて作成してください。
- 4)その他 発表者・共同研究者は本学会員に限ります。事務局からの返信を以て受理とさせていただきます。

### <<ワークショップ企画募集要領>>

要旨を添付したメールを下記アドレス [10th-jssan@thcu.ac.jp](mailto:10th-jssan@thcu.ac.jp) に送付してください。

- 1)メール件名 ワークショップ(氏名)  
「第10回日本アディクション看護学会学術集会」
- 2)メール本文 発表者名、所属、企画名、連絡先、メールアドレス
- 3)企画要旨 A4で1枚以内(余白:上下3.0cm、左右2.5cm)。本文40字×30行フォントサイズは企画名12ポイント、所属・氏名・本文10.5ポイント。以上をワードにて作成してください。
- 4)その他 事務局からの返信を以て受理とさせていただきます。



(筑波大学からみた筑波山 写真提供森先生)

## 3.大会参加費について

会員5000円(事前登録4000円)、非会員7000円(事前登録6000円)、学生(大学院生を除く)1000円。懇親会4000円。

事前参加登録の締め切りは8月15日(月)です。なお、市民講座は無料で参加出来ます。

### <郵便振替口座>

口座番号 00100-4-569124

口座名称 第10回日本アディクシ  
ョン看護学会学術集会

通信欄 氏名、連絡先(住所・電話)、  
会費支払いの種別、懇親会参加の有無、  
弁当希望の有無を明記してください。



(筑波大学大会館前広場 写真提供森先生)

### 4.第10回日本アディクシ ョン看護学会 学術集会事務局

学術集会事務局への連絡・問い合わせ・  
一般演題の申し込み・ワークショップの  
企画の申し込みは、下記までご連絡くだ  
さい。

### 第10回日本アディクシ ョン看護学会 学術集会事務局

〒152-8558

東京都目黒区東が丘 2-5-23

東京医療保健大学東が丘看護学部内  
(担当:田中)

**TEL:03-5779-5032(内線 506)**

**e-mail:10th-jssan@thcu.ac.jp**

### <事務局だより>

### 「米国ナースプラクティショナー の視察研修を終えて」

日本アディクシ  
ョン看護学会理事長

松下 年子

このたびの東日本大震災、福島原発の  
問題で被害を受けられました皆さま、今  
なお不自由な避難生活を余儀なくされて  
いる皆さまに、心よりお見舞い申し上げ  
ます。地震発生から2か月が経過しまし  
たが、これまでは目に見えなかったとこ  
ろで、被害の甚大さが露呈されてくる可  
能性もあるのではないかと危惧いたしま  
す。特に、メンタルヘルスやアディクシ  
ョン問題の観点からは、今後の課題は大  
きいものと拝察します。このような危機  
状況にあつて、本学会としても、アディ  
クシ  
ョン問題の予防や防止に貢献できる  
ような活動を、長期的展望をもって目指  
していきたいと考えます。

さて、今年の日本アディクシ  
ョン看護  
学会学術大会は、設立10年目という節目  
の大会になります。人の成長でいえば、  
やっと「小学校入学」、あるいは「中学校  
入学」、または、一気に飛んで「成人式」  
でしょうか。わが国のアディクシ  
ョン問  
題自体の大きさを考えると、一方で本学  
会の現規模を考えると、前者の小学校や  
中学校入学というレベルかもしれません。  
とはいえ、これまでの学会活動の継続と、  
10年目の学術大会開催に至るまでに費  
やされた会員はじめ皆さまのご尽力の  
大きさは計り知れません。そして、これ  
からの会の活動や成長に対する期待も

並々ならぬものです。そのような中、上述しましたように、国民全体が動揺しつつも一枚岩になって乗り越えていかなければならないような危機的状态に遭遇しました。本学会もアディクション看護の学会だからこそできること、期待されることをしっかりと見定め、実践し、評価して、一步一步確実に成長していくことが求められていると思います。会員の皆様には、これからも引き続きご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

話は変わりますが、昨年より「特定看護師（仮称）」に関する記事をよく目にするようになりました。認定看護師や専門看護師と同様に、高度看護実践家の一つ、ないしそれらを含む概念として想定されています。しかしこの「特定看護師（仮称）」が登場する経緯には、欧米のナースプラクティショナー（Nurse Practitioner: NP）の存在がありました。ナースプラクティショナーとは、専門看護師（CNS）と同じ高度看護実践家ですが、CNSとはその役割が異なります。その最たるものは、処方や診断、検査指示等の裁量権の有無です（ナースプラクティショナーには処方権があります）。ただし注意いただきたいのは、たとえばアメリカにおいて同じナースプラクティショナーといっても、その裁量の範囲は州ごとに異なるということです。アメリカでは一般の看護師資格も含めて免許は更新制をとっていますが、その要件も州ごとに異なります。

今回、カルフォルニア州のサンフランシスコに、精神科ナースプラクティショナーの視察研修に行ってまいりました。

そこでお会いした、ブプレノルフィン置換療法等のアディクション治療の専門機関で働くナースプラクティショナーのことをご報告します。



場所はサンフランシスコ市内にある **Office-Based Buprenorphine Induction Clinic (OBIC)** です。たまたま私がお伺いしたときは朝のミーティングの時間帯で、その日外来診察する患者について、精神科医（1名）とナースプラクティショナー（2名）、ソーシャルワーカー（1名）が情報共有していました。その後、女性のナースプラクティショナーが最初の受診者、違法薬物の男性依存症者を15分ほど診察しましたが、なかなか患者が本音を話すまでにいかず（幻聴もあったようでした）、そこで彼女は無理をせず男性のナースプラクティショナー（クリニックのディレクター【写真の男性】）に、その旨を申し送ります。つまり2段階の診察です。最終的に患者はナースプラクティショナーから向精神薬を処方してもらい、次回診察の予約をして帰るのですが、このケースで示唆されたのは、薬物依存症者が薬物をやめようとしても、それまでの薬物がらみの仲間や関係者、組織がそれを阻む動きをすること

が少なくないということでした。したがって違法薬物についてはただ本人にアプローチするだけではなく、社会全体の問題を解決する観点から、警察や司法など多様な機関を巻き込んで取り組んでいくことが不可欠です。そして、そのような社会的問題の解決に向けて、アディクションについてより専門性の高い精神科ナースプラクティショナーの活躍は必須です。今回の視察を通じて私は、アメリカでは精神科に限らずナースプラクティショナーなくして十分な医療は展開できないということを改めて確信いたしました。特定看護師（仮称）の導入を検討する上でおおいに参考にすべき話だと思います。

### 《編集後記》

東日本大震災で被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。アディクション看護に携わる会員様は、ご自身のことはさておいても患者様や学生諸子の安否に心を痛み、被災地へ思いを寄せていらっしゃるものと推察いたします。一日も早い回復をお祈りしております。

さて、遅ればせながら第10回日本アディクション看護学会学術集会のお知らせを載せた「News Letter 第17号」を発行することができました。開催地の筑波大学からは、緑多きのびやかな筑波山の写真を提供いただき、改めて日本風景のすばらしさを感じながら編集させていただきました。森千鶴先生、ありがとうございました。

また、私もナースプラクティショナーの視察研修に同行させていただきました。

たが、アメリカの精神科ナースプラクティショナーの活躍に目を見張りました。近い将来の日本の医療を考えさせられる充実した研修でした。（荒木とも子）

### 《事務局からお知らせ》

入会申し込み・学会費未納の方は、振込用紙をホームページからダウンロードしてご使用ください。

<http://plaza.umin.ac.jp/~jaddictn/>

現在会員数:175名 施設数 114 施設  
(2011.5.1 現在)

【事務局所在地】〒350-1241

埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学 保健医療学部

看護学科 松下年子研究室

日本アディクション看護学会事務局

TEL 042-984-4925 (丸山昭子直通)

FAX 042-984-4804

【事務局 e-mail】

[jissan@saitama-med.ac.jp](mailto:jissan@saitama-med.ac.jp)

日本アディクション看護学会補助機関誌

ニュース・レター 第17号

発行：平成23年5月25日

編集長：荒木 とも子

発行者：丸山 昭子

日本アディクション看護学会事務局